



ほほえみ



↑小山市のホームページ「人権」へ



令和5年度 栃木県人権に関する作文 最優秀賞受賞作品

「ダウン症のいところ」 小山市立小山坡北小学校 6年片木仰太さん

僕にはダウン症のいところがある。7歳年上のお兄さんで、今年、支援学校を卒業した。物心ついた時からの顔見知りなので、彼が「ダウン症」という障害を持っていることは、特に意識をしたことはなかった。ただ、他の人とはちょっと違うな、と思うことはあった。ダウン症の特徴的な顔つきだし、会話もできない。でも、話しかけると嬉しそうに笑ってハイタッチをする。そんないところが傍らにいて育ってきたので、障害についての偏見は僕にはない、と思っていた。ある出来事を経験するまでは。

いところが祖父母の家へ引っ越してきてから、一緒に食事をする機会が増えた。それまではさほど会うこともなかったわけだが、食卓を共有するいろいろなことが見えてきた。彼は食べるのがとても早くて、先に食べ終わると、僕の方をじっと見つめる。なんとも食べにくい気持ちになる。それから、好き嫌いが一切ない。僕が苦手なおかずも、ペロッと平らげてしまう。食べるのが好きらしい。それから、話しかけると、話しかけた言葉を返してくる。通じているのか、ちょっと不安になるが、僕の方を見てにこにこしてくれるのが嬉しい。そして、歌が好きなようだ。大きな声でよく歌っている。音程を外さないことにも驚いた。

そんなある日、祖父母の家へ行ったら、彼が「こうた！」と大きな声で僕を呼んだのだ。

僕は、ドキッとした。それまで一度もいところから名前を呼ばれたことがなかったからだ。いや、いところは僕のこととはわからないだろう、と思い込んでいたのだ。しかし、毎週のように食事を共にすることで、彼は僕の

ことを覚えた。そして、僕の顔を見て、確かに名前を呼んだのだ。それからいところは僕だけでなく、僕の兄弟の名前も呼ぶようになった。やみくもではなく、僕たちがいるところで、呼んでくれるようになった。

このことを通して、僕は、自分がいところに対して、偏見というか差別というか、そのような思いを持っていたことに気が付いた。僕のこととはわからないだろう、という先入観があったのだ。大変失礼なことだと感じて、胸が痛くなった。障害とは、人よりちょっと苦手なことがあるだけなのだ。学校を卒業した彼は、今年から就職して働いてみいる。僕と違って、長い夏休みもないらしい。しかも、農業班なので、暑くても外で働くという。もう、尊敬の念しかわかない。いところは立派なお兄さんだ。

自分には関係ないと思っていた偏見が、自分の中にあつたと知ったこの経験は、僕の視野を広くしてくれた。障害をもった方と共に生きる、ということ。それは、互いを理解し、助け合いながら生きていくということ。僕ははいとこのおかげで、新しい世界を歩き出した。

栃木県教育委員会 人権に関する作品コンクール 最優秀賞

【出典：人権に関する文集 『あすへのびる 第43集』 掲載作品】



「障害者差別解消法」(2016年4月施行)を知っていますか？



障がいのある人もない人も、すべての人が、安心して暮らせる共生社会の実現へ

すべての国民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障がいを理由とする差別の解消を推進することを目的として制定されました

不当な差別的取扱いの禁止

正当な理由なく

例えば

- ▲窓口対応を拒否する。
- ▲対応の順番を後回しにする。
- ▲特に必要出ないのに、付き添い者の動向を求める・拒否する。

合理的配慮の提供

負担が重すぎない範囲で…

例えば

- 段差がある場合に、車椅子利用者にキャスター上げ等の補助をする。
- 筆談、読み上げ、手話、点字、拡大文字などのコミュニケーション手段を用いる。
- 順番を待つことが苦手な障がい者に対し、周囲の人の理解を得た上で、手続きの順を入れ替える。

小山市における障がいを理由とする差別の解消の推進に関する対応要領の一部です。



義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または初期妊娠の方など、外見から分からなくても周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることができるマークです。名前は「ヘルプマーク」です。



障がいの有無や性別、年齢などのさまざまな違いにかかわらず、誰もが社会の一員として互いに人格と個性を尊重し合う社会を「共生社会」といいます。



本紙の内容や感想をご家庭で話題にしてみませんか？

